

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 6 日 (金)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	中川 文生	学校評議員	出席
	平田 利實	学校評議員	欠席 (提出)
	曾我 亨	学校評議員	出席
	今井 充彦	学校評議員	出席
	神野 恵介	学校評議員	出席
	和田 隆宏	新居浜市青少年センター所長	出席
	今井 基博	新居浜市少年補導委員協議会会長	欠席 (提出)
	佐藤 秀樹	新居浜市経済部産業振興課長	出席
	近江 笑奈	P T A 会長	出席

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
(1) グラデュエーション・ポリシー 工業高校として生徒や保護者、地域からも納得のいく適切で具体的な内容であると思う。今後も地域に貢献していく人材育成に尽力していただきたい。 「地域に貢献できる人材を育成する」が教職員や生徒に浸透しており、素晴らしい。これからも地域に必要とされる愛される新居工を目指していただければありがたい。	これからも、地域の産業界に貢献できる人材を一人でも多く育成できるよう、教職員間の意思疎通を図るとともに、地域の方々との連携を更に充実させていきたい。
(2) 学習指導 家庭での学習習慣の定着のために I C T 機器を活用した宿題等も検討されてはどうか。	すでに実践している教科もある。全体に広まっていくように、教職員生徒ともに I C T 機器の活用についてのスキルアップを図っていきたい。
(3) 学校経営 学校ホームページの充実に加えて S N S を活用した P T A 連絡網の開設や保護者へのメール配信など、学校からの情報発信は非常に充実しており素晴らしい。学校公開と情報発信の成果が上がっており自己評価 A は妥当だと思う。	今後も継続してホームページの充実と、マチコミメールの登録者数を増やして情報発信に努めていきたい。
(4) 工業教育 各種大会では全国優勝するなど素晴らしい実績を上げており、ものづくり教育の推進に向けて抜群の成果を収めている。ものづくり活動を通して地域にも大きく貢献しており、生徒は自己有用感や達成感を持つことができていると思う。今後も難しいことにチャレンジしていく生徒が増えていくことを期待している。 マッチングのためには、自ら見聞きたり経験することが重要なので、その面の御指導を継続してほしい。	ものづくり教育や課外活動を通じて、生徒が達成感を得ながら成長できる環境づくりに努めている。全国大会での活躍をはじめ、挑戦する生徒を今後も力強く支えていきたい。 地域企業との連携強化、実習機会の充実、体験型キャリア教育の拡大など、実践的な学びを更に推進し、生徒が将来と確実につながる経験を積めるよう取組を進めていく。
(5) I C T 教育 学校の I C T 環境は大変充実しており、分かりやすい授業の充実につながることを期待している。I C T 機器は使わないと活用スキルは向上せず、授業の充実にも結びつかないので、生成 A I の活用など他校をリードする先進的な取組にチャレンジすることを期待している。 本項目は、地域には見えにくい(評価しにくい)。	A I の活用についても、様々な機会を活用し、生徒教職員ともにスキルアップを目指していきたい。授業等での取組などを、ホームページや S N S 等でも発信していきたい。
(6) 特別活動 生徒の自己評価は良好であり、達成感や豊かな人間性が育まれているように思う。部活動加入率や全国大会出場などでも高い実績を上げておりすばらしい。自己評価 B は妥当だと思う。	運動会や新工祭、グループマッチなどの学校行事も生徒会やグループ長等のリーダーを中心に生徒たちが自主的・意欲的に活動できている。部活動も運動部・文化部ともに積極的に活動し、数多くの部が全国大会に出場するなど大きな成果を上げている。今後も生徒がそれぞれの場面で自主的・意欲的に活動させることにより充実感や達成感を味わわせるとともに責任感や連帯感を高めさせ、豊かな人間性や調和のとれた心身の発達を促したい。

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
(7) 生徒指導 高校生は未熟な面もあり、何かと失敗してしまいがちだと思う。規範意識を欠く考え方の者もあり指導が困難な場合もあると思う。アンケートや自己評価の内容から先生方の日頃の熱心な指導が感じられた。世の中の価値観は激しく変化している。校則は時代に対応したより良いものに改定した方が生徒のためにもなると思う。躊躇せずに改定を続け、今後とも粘り強く指導に尽力いただきたい。 登下校の交通マナーなどについては、家庭(保護者)との連携が地域の評価を上げていくには必要だと思う。学校での指導だけでは難しいのではないかと。	現在、チーム新工として教職員が一丸となって生徒指導に取り組んでいる。今後も連携し、粘り強く指導していきたい。 校則についても、生徒の意見を聞きながら、本校の生徒が目指すべき姿に沿った改定を検討していきたい。 まさに、学校外での交通マナーについての指導には限界がある。4月から青切符が導入されるが、保護者と連携しながら粘り強く指導していきたい。
(8) 教育相談 教育相談室だよりを年間に5回発行するなど熱心に活動していると思う。生徒がそれぞれ相談しやすい先生に気軽に相談できる、という体制の充実に努めていただきたい。また、特別支援教育に理解を深めることは、全ての生徒へのより良い指導につながる。教育相談や特別な配慮を必要とする生徒を見落としてしまわないように、教職員が協力し今後も粘り強く尽力していただきたい。 保護者の評価が低いところが気になる。	普段の何気ない会話や様子から気になる点を教員間で共有し、相談や見守りへとつなげていきたい。 生徒だけでなく保護者も、教育相談担当者との面談が可能であることを「教育相談室だより」や「マチコミ」等で連絡していきたい。また、スクールカウンセラーの来校日や、スクールソーシャルワーカーとの面談希望についても定期的に案内し、相談しやすい環境を整えていきたい。
(9) 人権・同和教育 保護者の評価が低いところが気になる。	保護者の評価が低い点については、人権委員の活動や人権だよりなど学校の取組について十分に伝えきれていないことが考えられる。人権だよりは現在、一斉配信という形で周知しているが、実際に開封し、内容まで読まれているかという点では十分とは言えない状況がある。配信したことで周知したと捉えるのではなく、内容が届き、理解につながっているかという視点で、今後はより関心を持って目にしていただく方法を工夫していきたい。
(10) 進路指導 「生徒自身が納得のいく進路実現」という目標に向けた進路指導の成果が現れており、自己評価Aは妥当だと思う。 資料によると令和3年度以降の求人数は激増しているが、県内・地元への就職者数は減っている。地元にも立派な企業や事業所があり、生徒が魅力を感じるようなアピールを更に工夫していただきたい。また、卒業後の在職率が高く、進路指導の成果が現れているが、これからは前向きにキャリアアップを目指して転職する時代になってくるようにも思う。 四国の私立大学の9割近くが赤字経営であるとの報道もあり、専門学校も含めて今後厳しい淘汰が予想される。生徒にとって進学する価値がある学校なのかを見極めるシビアな目が教師には求められるように思う。	県内・地元就職者の減少と、生徒の減少数がほぼ同じとなっている。生徒・保護者対象に県内・地元企業とのマッチングフェアを行っており、企業PRの場を設けている。3年生に実施している進路アンケートの結果では、2割以上の生徒が保護者の意見を参考にして就職先を決めており、就職先を決めるときに重視したこととして、休日数、賃金、職種が上位となっている。地元企業もこの現実を受け止めつつも、改善に苦勞をしている。
(11) 学校安全 今後も安全・安心な教育環境の維持・管理に尽力していただきたい。また、南海トラフでの巨大地震で甚大な被害が想定されている。生徒の危機意識の向上とリアリティのある訓練の実施等に今後も尽力していただきたい。	年間2回行う計画的な非常変災対策訓練と、予告なしの地震訓練を踏まえて、非日常生活で活用できるスキルを、日常生活の中で学ばせていきたい。
(12) 学校保健 健康は自ら実現するものであることを認識させ、若い時から良い習慣を付ける取組をしてほしい。	健康は与えられるものではなく、自ら実現していくものであることを生徒に理解させることが重要であると考えている。若い時期から望ましい生活習慣を身に付けられるよう、日々の保健指導や保健委員会活動の中で継続的に取り組んでいきたい。
(13) 学校行政事務 物価の急上昇が続いている中、限られた予算で学校行政事務の充実を図る事は困難であると思うが、今後も効率的な施設設備の整備改善に尽力していただきたい。	産業教育の充実のため要望していたドラフター10台390万円が今年度前倒しで入り、来年度には、NC旋盤3,900万円が入る予定で、本校の工業教育がより充実するものと思われる。 今後も、積極的に要望を上げて生徒の教育環境の充実を図る。
(14) 業務改善 ICTによる学習支援システム、校務支援システム等の活用とテレワーク制度等も有効に利用し、より一層ワークライフバランスを図っていただきたい。 企業と同じように学校も接客マナーや言葉遣いのレベルアップを図るべき。外からの客はまず窓口を訪ねる。ここが洗練されると続いて先生方、生徒達も変わる。そのようにして校風が育ってゆく。	今後もICTの積極的な活用やテレワークの推進を図り、教職員のワークライフバランスの維持やゆとりにつなげていきたい。また、御指摘のとおり、来校者に対するマナーを改善し、本校の印象をより良いものとした。